

編集後記

■編集委員 (50 音順)

伊 熊 健 一 郎	岩 崎 昭 憲	小 澤 壯 治	北 島 政 樹
北 野 正 剛	清 水 一 雄	徳 村 弘 実	東 原 英 二

本誌編集委員会のメンバーに加えていただけてから投稿論文の本数が増えていることを実感している。本誌が臓器別、各科別専門分野を越えて広く門戸を開いている雑誌であるうえ、また各科領域での内視鏡下手術の急速な進歩と発展から考え合わせると当然のことである。ほかの邦文誌にはみられない現象であろう。ただ残念なことは限られたスペースの中で掲載できる論文数、頁数がある程度決まっている以上、委員会での慎重な審査で質の高い投稿論文でも止むなく不採用となる場合も必然的に出てくることは避けられない。それだけにこのような状況下で掲載された論文は内容も立派で本誌の質をさらに高めていくものである。

本号に掲載されている論文を分野別にみると、消化器外科系の論文が多く、肝胆脾系が続き、腹腔内腫瘍（腹膜原発血管平滑筋腫）、および心臓血管外科の症例が一題ずつみられる。疾患の数、内視鏡下手術に携わっている外科医の数からしてこの割合は当然の事実ではあるが、他分野からの論文ももう少しほしいところである。また、症例報告に比して原著論文が少ないのも少し気になる。

内分泌外科系に目を転じると、女性に多い疾患であるため整容上の利点は明らかであるものの、甲状腺を主体とした内分泌外科の論文は少ない。本邦では1998年に甲状腺内視鏡下手術が開始されてから10年が経過し、本手術を施行する施設も増えた。2003年には「内視鏡下甲状腺・副甲状腺手術」として特集も組まれ甲状腺へのアプローチ法を中心とした論文が掲載された。そして、副腎を含めた内分泌内視鏡外科手術を行っている施設は全国で多数あり、また甲状腺疾患自体も多数あるにもかかわらず、投稿論文が少ないのは何故であろうかと考えてしまう。副腎は泌尿器科とのオーバーラップがあり本誌への論文が減少するのは理解できるが、甲状腺に関しては雑誌「内分泌外科」においても最近に限られた施設からの論文が散見されるのみとなっている。実際、今まで内分泌外科、甲状腺外科の学会でも多数の発表がみられるのに、本誌に論文となって現れてこない。大きな理由の1つとして、いまだ保険収載がなされていないことがさらなる普及の妨げになっているのであろうか。このことに関しては1日も早い認可を待ち望んでいる。

心臓血管外科分野では、今回、心房細動に対する胸腔鏡下 mini Maze の論文が掲載されている。新しい分野である。2006年に特集が組まれた「下肢静脈瘤に対する内視鏡下手術」も含め、今後この分野のさらに多数の投稿を期待している。

最後に、これだけ多分野、多領域から良論文が掲載される雑誌であるにもかかわらず、邦文であるがゆえ読者が限られていることが残念でもある。

(清水一雄)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第12巻 第6号) 2007年12月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価2,835円(本体2,700円+税5%)となります。

2007年 年ぎめ予約購読料: 16,500円(税込)(配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2007, Printed in Japan

発 売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 藤田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株) 文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。

- エディトリアル北野正剛 大分大第1外科
1. 進行結腸癌に対する本邦の現況—厚生労働省多施設共同研究班猪俣雅史 大分大第1外科
 2. 直腸癌に対する本邦の現況—腹腔鏡大腸切除研究会多施設共同研究渡邊昌彦 北里大外科
 3. 進行大腸癌に対する腹腔鏡下手術の低侵襲性および患者 QOL長谷川博俊 慶大外科
 4. 右側結腸進行癌に対する腹腔鏡下手術の手技のポイント山本聖一郎 国立がん中央 H 大腸外科
 5. 横行・下行結腸進行癌に対する腹腔鏡下手術の手技のポイント
.....田中淳一郎 昭和大横浜北部 H 消化器病セ
 6. S 状結腸・直腸進行癌に対する腹腔鏡下手術の手技のポイント岡島正純 大阪医大一般・消化器外科
 7. 内視鏡外科手術ガイドラインにおける進行大腸癌の位置づけ奥田準二 大阪医大一般・消化器外科
 8. 大腸癌における技術認定制度の現況と役割小西文雄 自治医大大宮医療セ外科